

子どものいじめとヒヨコの尻つき(後)

バタリー育雛についての考察の続きです。地面から離して飼うことで、土中の病原菌からは逃れることができましたが、尻つきという別の問題が起ってしまいました。そこで、加害ヒナと被害ヒナの両者を隔離するという対策を講じたことまでは前号で書きました。

じつは残念ながら、問題は解決しませんでした。

いわば優等生?だけにしたはずなのに、その残った群の中で、また

新たな加害ヒナが出てしまうのです。尻つきと隔離、いわばイジメと対症療法のイタチごっこです。

結局どうしたかという、平飼い育雛の復活です。この2月に新しく入れたヒヨコは、成鶏舎とは別に大きな箱を用意し、もちろん電熱で温度も保ちつつ、床面には砂を敷いて放しました。

ヒヨコたちは、自由に砂浴びをしたり、エサを足でかっちやいたりしています。きょう撮ったのが下の写



襲来

烏骨鶏が10数羽、一夜にしていなくなりました。またしてもコン畜生。

真。入れてから一ヶ月を過ぎるところですが、みんなみんな元気です。

*

前号でふれたテレビ討論では、いじめる側といじめられる側に子どもたちを分けて考えようとしたのかな。でもそれだと、対症療法のイタチごっこにつながるだけでしょう。

イジメが起きるような教室・社会を大人の側こそが反省し、そこを改善することが求められているんだよね。そんなことを、伸び伸びと砂にからまり、エサを散らかしているヒヨコたちが教えてくれているような気がするのです。

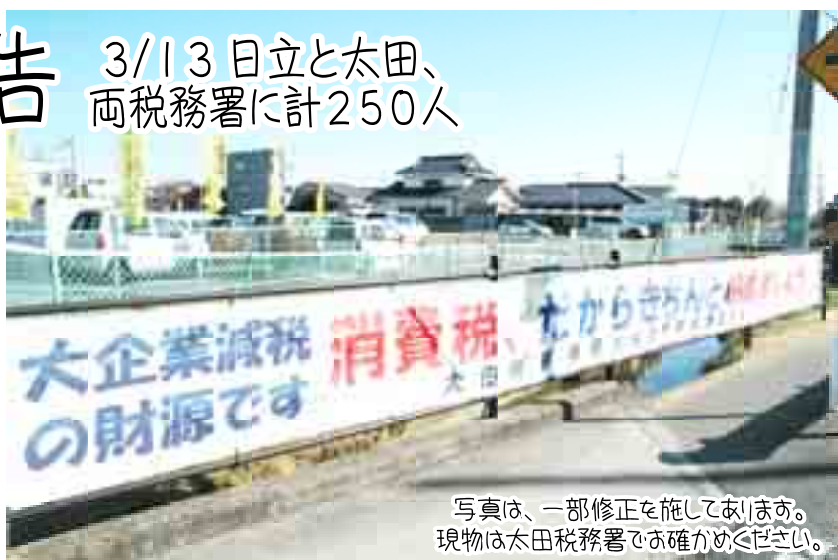
あ、思考力や学ぶ力をもった人間と、本能のままのヒヨコとを一緒にしちゃダメかな。と、2つの側面で言いたいことがあるけど、それは別の機会にでも。(続きません)



今年も集団申告 3/13 日立と太田、 両税務署に計250人



税務署までデモ行進



写真は、一部修正を施してあります。現物は太田税務署でお確かめください。